

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月10日

上場取引所 東大

上場会社名 宝ホールディングス株式会社  
 コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 大宮 久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR室長 (氏名) 松崎 修一郎  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月12日

TEL 075-241-5124

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	91,978	—	2,749	—	2,758	—	2,692	—
20年3月期第2四半期	91,195	△5.3	2,684	△17.1	2,780	△14.4	1,249	△26.5

  

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	12.51	—
20年3月期第2四半期	5.77	5.77

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	196,820	—	110,535	—	49.6	—	454.56	—
20年3月期	207,843	—	113,273	—	48.1	—	462.00	—

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 97,663百万円 20年3月期 99,969百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	8.50	8.50
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	8.50	8.50

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	195,400	1.8	8,700	2.3	8,700	△4.6	5,200	11.6	24.18

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 217,699,743株 20年3月期 217,699,743株

② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 2,845,948株 20年3月期 1,313,548株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 215,299,328株 20年3月期第2四半期 216,424,849株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「定性的情報・財務諸表等」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

(文中、前年同期比は前中間連結会計期間の決算数値によっており、参考です。)

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した米国の金融不安が、米国大手証券会社の破綻により世界的な金融危機や急激な円高の進行へと進展し、国内でも企業収益の悪化や消費の低迷が懸念されるなど先行き非常に厳しいものとなっております。このような状況のなか、当社グループは今期よりスタートした第7次中期経営計画の達成に向け、着実な営業活動に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比100.9%の91,978百万円と若干の増収となりました。また原材料価格の高騰により売上総利益は減少いたしましたものの、販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は同102.4%の2,749百万円となりました。また営業外損益では円高により為替差損が発生したため、経常利益は同99.2%の2,758百万円となりました。特別損益では前年の係争和解費用がなくなったことや固定資産売却益の発生などにより、税金等調整前四半期純利益は同145.1%の3,209百万円となりました。また、過去に減損損失を計上していた遊休固定資産の売却により繰延税金資産の計上が可能となったため、四半期純利益は同215.5%の2,692百万円と大幅な増益となりました。

事業の種類別セグメントの業績概要及び品種別販売実績（外部売上高）は以下のとおりです。

#### (酒類・調味料セグメント)

当第2四半期連結累計期間の食品業界では、いわゆる事故米の不正転用事件や、中国産乳製品のメラミン混入事件など食の安全にかかわる重大事件が相次ぎました。当社グループでは消費者の皆様へ安全で良質な製品を提供することを第一に考えており、品質管理体制のさらなる強化に注力しております。

酒類・調味料セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は、焼酎、ソフトアルコール飲料、原料用アルコール等が前年同期に比べ増収となりましたので、清酒は減少いたしましたものの、セグメント全体の外部売上高は前年同期比101.8%の75,565百万円、セグメント売上高は同101.6%の76,012百万円となりました。

利益面では、引き続き原材料価格の上昇がありましたものの、徹底的なコストダウンと、販売費及び一般管理費の削減により、セグメント営業利益は前年同期比113.7%の3,013百万円となりました。

#### (バイオセグメント)

バイオセグメントでは、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、遺伝子工学研究分野、遺伝子医療分野、医食品バイオ分野の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、遺伝子工学研究分野の減少の影響が大きくセグメント全体の外部売上高は前年同期比95.4%の8,655百万円、セグメント売上高は同94.9%の8,927百万円となりました。

利益面では、売上原価率の低減はありましたものの、売上高の減少に伴い売上総利益は同96.9%の4,618百万円となりました。販売費及び一般管理費で、販売促進費やのれん償却費などの増加があったため、120百万円のセグメント営業損失（前期は営業利益237百万円）となりました。

#### (物流セグメント)

物流セグメントでは、燃油費の高騰を転嫁することができず大変苦しい状況が続いているなか、外部売上高は前年同期比103.8%の4,398百万円となり、セグメント売上高は同103.7%の8,270百万円となりました。一方、軽油価格の高騰により売上総利益は同91.9%の510百万円となり、販売費及び一般管理費の削減に努めましたものの、セグメント営業利益は同92.6%の159百万円となりました。

#### (その他セグメント)

その他のセグメントの外部売上高は前年同期比92.5%の3,358百万円、セグメント売上高は同94.2%の5,979百万円となり、セグメント営業利益は同348.7%の43百万円となりました。

## 品種別販売実績

事業の種類別セグメントの名称	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	前年同期比
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
酒類・調味料			
焼酎	36,709	37,600	102.4
ソフトアルコール飲料	10,534	10,923	103.7
清酒	8,578	8,055	93.9
その他酒類	5,411	5,566	102.9
酒類計	61,234	62,145	101.5
本みりん	7,635	7,515	98.4
その他調味料	2,660	2,783	104.6
調味料計	10,296	10,299	100.0
原料用アルコール等	2,004	2,334	116.4
その他	718	786	109.4
計	74,254	75,565	101.8
パイオ	9,072	8,655	95.4
物流	4,235	4,398	103.8
その他	3,632	3,358	92.5
合計	91,195	91,978	100.9

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は196,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,023百万円の減少となりました。その主な要因は、社債の償還資金としての現金及び預金および有価証券の減少や、土地売却などによる有形固定資産の減少ならびに、上場株式の時価下落による投資有価証券の減少などです。負債は1年内償還予定の社債の償還や投資有価証券の時価下落などに伴う固定負債のその他（繰延税金負債）の減少により同8,285百万円減少し86,284百万円となりました。純資産は、株主還元策としての自己株式の取得や、時価下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少および円高による為替換算調整勘定の減少などにより同2,737百万円減少し110,535百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益3,209百万円や減価償却費2,481百万円などがありましたが、法人税等の支払額△2,432百万円などがありましたので1,259百万円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入2,168百万円や有形及び無形固定資産の取得による支出△1,440百万円などにより512百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還による支出△5,000百万円や自己株式の取得による支出△1,150百万円および配当金の支払額△1,836百万円などにより△7,984百万円となり社債の発行のあった前年同期間に比べ△13,384百万円の支出超過となりました。また、現金及び現金同等物の四半期末残高はほぼ前年同期並みの35,956百万円となりました。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

酒類・調味料セグメントでは、焼酎が飲用甲類焼酎、本格焼酎ともに順調に推移し、セグメント売上高は期初計画を上回る見込みですが、原材料価格の高騰などコストアップ要因もあり、セグメント営業利益は期初計画並みとなる見込みです。バイオセグメントでは円高の影響もあり研究用試薬の売上が未達となる見込みですが、販売費及び一般管理費の削減によりセグメント営業利益は期初計画を若干上回る見込みです。

物流・その他セグメントを合わせた連結売上高及び営業利益は期初計画を若干上回る見込みですが、円高による為替差損により経常利益は期初計画並みを予想しています。なお、当期純利益は、昨今の株式市場の低迷を勘案し投資有価証券評価損を見込んでいますが、第2四半期連結会計期間に計上した繰延税金資産（法人税等調整額のマイナス）により期初計画を上回る見込みです。

（投資有価証券評価損は期末日の株価で確定しますので、今後の株式市場の動向により変動します。）

平成20年5月13日に発表した期初計画からの修正は次表のとおりです。

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
修正予想	195,400	1.8	8,700	2.3	8,700	△4.6	5,200	11.6	24	18
期初計画	194,500	1.4	8,600	1.1	8,700	△4.6	4,700	0.9	21	72
増減額・率	900	0.5	100	1.2	—	0.0	500	10.6	2	46

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
記載すべき事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
- ② 第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）を適用し、評価基準について収益性の低下に基づく簿価切下げの方法に変更しております。また本会計基準の適用を契機に、一部の国内連結子会社で従来営業外費用で処理しておりました原材料廃棄損を売上原価で処理することといたしました。これらの変更により、当第2四半期連結累計期間の営業利益は148百万円、経常利益は21百万円、税金等調整前四半期純利益は117百万円それぞれ減少しております。
- ③ 第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号）を適用し、連結上必要な修正を行っております。これにより営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ63百万円減少しております。
- ④ 第1四半期連結会計期間より「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を早期適用しております。これにより、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていた所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。この変更により損益に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,554	26,529
受取手形及び売掛金	46,441	46,990
有価証券	14,625	18,132
商品及び製品	20,843	20,575
仕掛品	1,295	1,420
原材料及び貯蔵品	3,063	3,100
その他	4,989	4,209
貸倒引当金	△162	△160
流動資産合計	114,650	120,796
固定資産		
有形固定資産	45,119	47,341
無形固定資産		
のれん	2,363	2,930
その他	2,861	3,630
無形固定資産合計	5,225	6,561
投資その他の資産		
投資有価証券	24,436	26,122
その他	7,804	7,427
貸倒引当金	△416	△405
投資その他の資産合計	31,824	33,144
固定資産合計	82,169	87,047
資産合計	196,820	207,843
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,490	14,301
短期借入金	5,044	4,964
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	7,598	7,784
未払費用	3,360	4,475
未払法人税等	1,561	2,287
賞与引当金	2,139	1,985
その他の引当金	1,523	1,490
その他	5,020	5,316
流動負債合計	40,739	47,607
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	5,597	5,718
退職給付引当金	9,016	8,899
長期預り金	6,537	6,639
その他	4,394	5,705
固定負債合計	45,545	46,963
負債合計	86,284	94,570

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,201	3,204
利益剰余金	77,975	77,342
自己株式	△2,145	△1,011
株主資本合計	92,257	92,761
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,834	6,679
繰延ヘッジ損益	△20	△46
為替換算調整勘定	△408	575
評価・換算差額等合計	5,406	7,208
少数株主持分	12,871	13,303
純資産合計	110,535	113,273
負債純資産合計	196,820	207,843

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	91,978
売上原価	57,377
売上総利益	34,600
販売費及び一般管理費	
販売促進費	12,956
販売促進引当金繰入額	1,355
賞与引当金繰入額	1,212
その他	16,327
販売費及び一般管理費合計	31,851
営業利益	2,749
営業外収益	
受取利息	148
受取配当金	259
その他	167
営業外収益合計	576
営業外費用	
支払利息	306
その他	261
営業外費用合計	567
経常利益	2,758
特別利益	
固定資産売却益	890
その他	30
特別利益合計	921
特別損失	
固定資産除売却損	110
投資有価証券評価損	105
たな卸資産評価損	95
係争和解費用引当金繰入額	125
その他	33
特別損失合計	469
税金等調整前四半期純利益	3,209
法人税、住民税及び事業税	1,582
法人税等調整額	△1,002
法人税等合計	580
少数株主損失(△)	△63
四半期純利益	2,692

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	3,209
減価償却費	2,481
受取利息及び受取配当金	△408
支払利息	306
有形固定資産売却損益 (△は益)	△890
売上債権の増減額 (△は増加)	343
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△470
仕入債務の増減額 (△は減少)	264
未払酒税の増減額 (△は減少)	△185
その他	△1,099
小計	3,550
利息及び配当金の受取額	452
利息の支払額	△311
法人税等の支払額	△2,432
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,259
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,596
定期預金の払戻による収入	1,455
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,440
有形固定資産の売却による収入	2,168
その他	△74
投資活動によるキャッシュ・フロー	512
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債の償還による支出	△5,000
自己株式の取得による支出	△1,150
配当金の支払額	△1,836
その他	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,984
現金及び現金同等物に係る換算差額	△181
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,394
現金及び現金同等物の期首残高	42,350
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,956



当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)						
	酒類・ 調味料 (百万円)	バイオ (百万円)	物流 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	75,565	8,655	4,398	3,358	91,978	—	91,978
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	447	271	3,872	2,620	7,212	(7,212)	—
計	76,012	8,927	8,270	5,979	99,190	(7,212)	91,978
営業利益又は営業損失(△)	3,013	△120	159	43	3,096	(346)	2,749

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質に加え販売市場の類似性などを考慮して、酒類・調味料、バイオ、物流及びその他の4事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類・調味料	焼酎、ソフトアルコール飲料、清酒、ワイン、ウイスキー、中国酒、本みりん、食品調味料、原料用アルコール
バイオ	研究用試薬、理化学機器、研究受託サービス、遺伝子工学研究関連特許実施許諾対価料、遺伝子導入関連製品、キノコ、ブナシメジ特許実施許諾対価料、バイオ医食品
物流	貨物運送業、倉庫業、流通加工業
その他	ラベル、ポスター、カタログ、カートン、段ボールケース、包装紙、販促用品、不動産賃貸、健康食品

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「定性的情報・財務諸表等」4.(3)②に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて当第2四半期連結累計期間では、酒類・調味料事業の営業利益が136百万円、その他事業の営業利益が0百万円減少し、バイオ事業の営業損失が11百万円増加しております。

(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)

「定性的情報・財務諸表等」4.(3)③に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間のバイオ事業の営業損失が63百万円増加しております。

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

## 「参考資料」

## 前年同四半期に係る財務諸表

## (1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年 4 月 1 日 至 平成19年 9 月30日)		
	金額 (百万円)		百分比 (%)
I 売上高		91,195	100.0
II 売上原価		56,441	61.9
売上総利益		34,753	38.1
III 販売費及び一般管理費		32,069	35.2
営業利益		2,684	2.9
IV 営業外収益			
1 受取利息	122		
2 受取配当金	281		
3 その他	267	671	0.7
V 営業外費用			
1 支払利息	251		
2 社債発行費	76		
3 たな卸資産廃棄・欠減損	91		
4 その他	156	575	0.6
経常利益		2,780	3.0
VI 特別利益			
1 投資有価証券売却益	583		
2 持分変動利益	184		
3 その他	95	863	1.0
VII 特別損失			
1 係争和解費用	1,195		
2 その他	237	1,432	1.6
税金等調整前中間純利益		2,211	2.4
法人税、住民税及び事業税	1,135		
法人税等調整額	△211	923	1.0
少数株主利益		38	0.0
中間純利益		1,249	1.4

## (2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (百万円)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前中間純利益	2,211
減価償却費	2,659
退職給付引当金の増減額 (減少:△)	75
貸倒引当金の増減額 (減少:△)	△152
賞与引当金の増減額 (減少:△)	31
役員賞与引当金の増減額 (減少:△)	△17
販売促進引当金の増減額 (減少:△)	117
受取利息及び受取配当金	△404
支払利息	251
投資有価証券売却益	△583
持分変動利益	△184
社債発行費	76
売上債権の増減額 (増加:△)	1,775
たな卸資産の増減額 (増加:△)	△554
仕入債務の増減額 (減少:△)	1,180
未払酒税の増減額 (減少:△)	805
未払消費税等の増減額 (減少:△)	△300
その他流動負債の増減額 (減少:△)	△3,491
その他	15
小計	3,513
利息及び配当金の受取額	416
利息の支払額	△269
法人税等の支払額	△2,129
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,531
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形・無形固定資産の取得による支出	△2,151
有形固定資産の売却による収入	739
投資有価証券の取得による支出	△531
投資有価証券の売却による収入	89
投資有価証券の償還による収入	1,000
関係会社株式・出資金の取得による支出	△105
関係会社株式・出資金の売却による収入	861
その他	△1,294
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,393

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額(百万円)
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(減少:△)	50
長期借入金の返済による支出	△20
社債の発行による収入	9,923
社債の償還による支出	△5,000
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	5,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	△3,000
少数株主に対する株式の発行による収入	99
配当金の支払額	△1,620
少数株主への配当金の支払額	△7
その他	△25
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,399
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	84
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額(減少額:△)	5,621
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	29,601
Ⅶ 現金及び現金同等物の中間期末残高	35,222

### (3) セグメント情報

#### [事業の種類別セグメント情報]

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)						
	酒類・ 調味料 (百万円)	バイオ (百万円)	物流 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	74,254	9,072	4,235	3,632	91,195	—	91,195
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	542	330	3,737	2,714	7,323	(7,323)	—
計	74,797	9,403	7,972	6,346	98,519	(7,323)	91,195
営業費用	72,146	9,165	7,800	6,334	95,445	(6,935)	88,510
営業利益	2,651	237	172	12	3,073	(388)	2,684

#### [所在地別セグメント情報]

前中間連結会計期間(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

#### [海外売上高]

前中間連結会計期間(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。